
泥雪のスノウマン

雛月詩音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

泥雪のスノウマン

【ZPDF】

N1098D

【作者名】

雛月詩音

【あらすじ】

スレた女の子が、元気な女の子に会ってすこしじだけ救われるお話。

むかつく。あーむかつく。別に理由とかないけどむかつく。
あるでしょ？ そういうことって。ワケもなくイライラするとき
とか。ない？ あるの。だって今あたしがそудだし。

寒いし。雪とか積もりまくり。白い。真っ白だよ。
それでそこかしこで子どもとか大人とかが雪ダルマなんか作つて
るの。一生懸命でつかいの作つてるひととかちいさいの量産してゐ
ひとつとかいろいろだけど。あーもう必死になつちゃつてむかつく本
当。

なんか雪ダルマ見ると余計イラッとするんだよね。

だから泥水ぶつかけてやつた。

真っ白できれーな雪ダルマが一瞬にして泥まみれ。真っ黒という
か真っ茶色。汚れちゃつた、あーきたない。かわいそー。

ちょっと田を離したせいで苦労の結晶を台無しにされちゃつた女
のこが、泣きそうな声あげながら家の中に駆け込んでつた。おかー
さーん。だるまさんがー。

まったく。どうしようもないな。

何こめかの雪ダルマに泥水ぶつかけた後、ふつと振り返ると、ち
つさな女のこがあたしを見上げてた。上目づかいで。ぼけーと。
まったく気配を感じなかつたあたしはびっくりして、思わず声を

かけた。

「何あんた？」

「雪ダルマつくる？」

話しが通じないからガキは嫌いだ。

「作らない」

やう言つて逃げよつと思つたら、マフラーの端っこを掴まれた。

首しまつた。

「放してよ」

「じゃあおねーちゃんは、からだのまうね。おつきこの作つてね
話しが通じないから、ガキは嫌いだ。

まじで作り始めるし。三歩転がすことにいつしか見んなよもつ。

あーもう寒い冷たい手袋べちゃべちゃだし重いしなんだこれ雪つ
てなんでこんな重いんだよふざけんな。
ていうかなんであたしは雪玉転がしてんだよ。

「ふおーもう少しでできるよおー」

「ふおーじゃねえよ。寒いよ。

あーもうリアルに冷たいよ手が。もうとっとと帰つてコタツ入り
たい。コタツでみかん食べたい。むくのがちょっと面倒だけビニの
際ぜいたく言わないから。そしたらシロ適当にいじつた後でコタツ
で夕寝。そうだそうしよう。

ちなみにシロはまつちの飼いねこだ。

「できたーっ！」

肩で息をするあたしは返事できない。でつかい雪ダルマが、真つ
白まつさらなスノウマンが生まれちゃつたよこにくくしょう。ガキ
には頭持ち上げるの無理だから、完成させたのはあたしなんだけど
明らかにガキのほうが喜んでる。重かつたつつの。

「よつし」

はいはいよかつたね。あたしは疲れたから、濡れるのも構わずス
ノウマンの横に座り込んだ。ガキはてつてつてとスノウマンから離
れていった。おいちょっとまともう帰るのかよ。すこしは遊んでき
よ。あたし何のために働いたんだよ。

と思つてたらひったちに戻つてきた。ガキはワケわからんから嫌い
だ。

はあ、とため息ついて俯いたあたしの耳に、やたら元気なガキの歓声が飛び込んできた。

「たあーっ！」

ふつとんでもつた。

あたしの目の前で。スノウマンの頭が。

ドロップキックだつた。それはもう見事なドロップキックだつた。揃えた両足がスノウマンのどたまにクリティカルヒットしてすこーんともうだるま落としみたいに吹つとんでもくのがはつきり見えた。

スノウマンの頭は勢いよく吹つとんだあと、地面にぶつかると粉々に割れた。粉々。完膚無きまでに粉々だつた。真っ白だつたけど地面の泥雪と混じつて区別つかなくなつた。それはもう、あつとう間に。

スノウマン、おーくなり。

享年一分。

早。

「あはははははは！」

やつたらうれしそーな、ガキの笑い声。雪の中に倒れこんだまま、げらげら腹抱えてわらつてる。もう本当心の底からたのしそーなの。すごい。わらいすぎ。明らかにわらいすぎ。

で、あつちみれば粉々の元スノウマン。あたしが苦労して持ち上げてやつたスノウマン。

「ぶつ」

なんかウケた。

「ははっ。オマエ、やってくれたなこら」

ぱあーんと軽くガキのあたまをひっぱたいてやつた。でもまだ笑つてるし。

ガキは笑い続ける。あたしも座つたままちょっと笑つた。通行人にへんな目で見られたけど、まあいや、ゆるしたげる。

ああ、なんか早くあつたまりたいな。帰つて「タツ」とか入つてみ
かん食べたい。

そんでシロいじくいって、コタツつけっぱで夕寝するの。
気持ちいいぞきっと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1098d/>

泥雪のスノウマン

2010年12月14日14時48分発行